

# 平成29年度 学校評価総括表

(徳島県立徳島科学技術高等学校)

基本方針	科学技術の高度化・複合化，社会の変化や産業界の要望に対応した専門教育を展開する。
基本目標	① 礼儀，責任，技術の調和のとれた教育を推進し，心豊かで創造力に富み，自主的・自立的に行動できる人間を育成する。 ② 基本的人権を尊重し，自他を大切にし，地域社会や国際社会に貢献できる人間を育成する。 ③ 技術革新や社会の要請に対応しうる，実践力を身につけた技術者を育成する。
重点目標	① 進学希望者と就職希望者の両者を支援するハイブリッド型（複線型の進路体系）教育システムを生かし，生徒の個性を伸ばす教育を展開する。 ② SSH事業の取組を通して，創造力・独創力を養い，人・地球にやさしいものづくりを推進する。工業，水産・海洋関係の技術者や科学者として国際社会で活躍することのできる人材を育成する。 ③ 一定の成果指標を定めたマニフェストに基づき，具体的な取組を実践し，特色ある教育活動を実践する。

達成度	A	十分達成できた	C	変化の兆しがあった
	B	概ね達成できた	D	達成が不十分であった

本年度の具体的目標	<b>テーマ</b> <b>倫理観の高揚に努め，豊かな人間性を育むとともに，意欲的に学び，社会の変化に主体的に対応する力を養う教育を推進する。</b>
	① 文武両道を実践し，何事にも自ら主体的に取り組む態度を養う。 [主体的に取り組む姿勢の育成] ② 次世代を担う技術者として必要な専門分野に関する基礎的・基本的な知識，技能，技術の習得及び定着を図り，地域社会や産業界に貢献できる人材を育成する。[専門教育の推進] ③ グローバルな視点をもって将来設計ができるよう，キャリア教育の推進に努める。 [キャリア教育の充実]

## 年度総合評価

重点課題	SSH部	人権教育	学習指導	生徒指導	進路指導	教育相談 特別支援教育	環境教育	防災教育	保健安全教育	特別活動	工業・水産 教育 (高大連携) (インターシップ)	工業・水産 教育 (スキルスタンダード) (資格) (コンテスト)	家庭・地域との連携
番号	1, 2	3, 4, 5	6, 7, 8	9, 10, 11, 12	13, 14, 15, 16	17, 18, 19	20	21	22	23, 24	25	26	27, 28, 29
総合評価	A	B	B	B	B	B	B	A	B	A	B	B	A

## 学校自己評価

年度目標					年度評価(3月1日現在)			
番号	重点課題	重点目標	活動計画	活動の評価指標(目標値)	評価指標の達成状況	総合評価	効果と検証	次年度への課題と改善策
1	SSH部 ① SSH事業の取組を行うことにより，理数系教育を通して，科学技術人材の育成を図る。	① 課題研究発表会等により，プレゼンテーション能力の育成を図り，主体的に取り組む能力を養う。 (SSH部・各課・コース)	① 年度末にSSH研究発表会を開催する。 ② 各種コンテスト，発表会等に積極的に参加する。	① 各コースごとに研究テーマを発表する。 発表を11テーマ以上とする。 ② 各種コンテスト等に参加し，入賞以上をめざす。	(評価指標による達成度) ① SSH研究発表会で口頭発表6テーマ，ポスター発表10テーマ発表した。 ② 科学の甲子園等に参加した。また，実技競技1において奨励賞を受賞した。 (活動計画の実施状況) ① 2月21日に実施。 ② 随時実施。	(達成度) A  (所見) ①② 計画通りに実施できた。	① 各コース1テーマ以上発表をすることで，SSHに関する意識付けができ，プレゼンテーション能力の向上にも繋がった。 AO入試において，プレゼンテーションの選抜方法により国立大学に合格した。 ② 発表会へ積極的に参加し，参加人数も増加した。	① 英語の発表もできるようにしたい。 ② 参加人数を増加させるだけでなく，入賞数も増やす。 ③ プレゼンテーション等に関する講習会を実施する。
2		② SSHの取組により，生徒の興味や関心を持たせる。 (SSH部・各課・コース)	① 魅力あるSSH事業を展開し，理科・数学への興味や関心を向上させる。	① 「SSHの各種事業に参加して，科学技術に興味・関心が増した」70%以上。	(評価指標による達成度) ① 1年生 80.6% 2年生 76.7% 3年生 72.6% (活動計画の実施状況) ① SSH研究発表会後にアンケート調査を行った。	(達成度) A  (所見) ① 目標値をほぼ達成できた。	① SSHや理数科目への興味・関心が得られた。課題研究等への意識付けができた。	① アクティブラーニング等の授業改善を行う。1年生にも理解できるような発表を心がける。SSH課題研究において教材等の成果をあげる必要がある。

学 校 自 己 評 価								
年 度 目 標					年 度 評 価 ( 3 月 1 日 現 在 )			
番 号	重 点 課 題	重 点 目 標	活 動 計 画	活 動 の 評 価 指 標 ( 目 標 値 )	評 価 指 標 の 達 成 状 況	総 合 評 価	効 果 と 検 証	次 年 度 へ の 課 題 と 改 善 策
3	人権教育 ① 学校生活のあらゆる場面で、人権教育を展開する。	① 人権尊重の精神の涵養が図られるよう、学校の教育活動全体の中で、人権教育を推進する。 (進路部・人権教育課)	① 本校の人権教育年間指導計画における各課・教科の人権教育努力目標の作成。 ② 人権学習(ホームルーム活動・かぎまる人権 day)等において個人人権課題について学習する。 ③ 指導内容・方法の工夫・改善を図るため、研修機会や校内研修の充実に取り組む。	① 各課・教科それぞれが計画通り行事等を実施できている。(90%以上) ② 個人人権課題の学習。(10課題以上) ③ 研究授業とHR活動(人権)事前研修、地域研修、校外研修(各種研究大会)の実施。(年7回以上)	(評価指標による達成度) ① 90%以上達成。 ② 9課題の学習を実施。 ③ 校内外の研修を7回実施。 (活動計画の実施状況) ① ほぼ計画通り実施できた。 ② ホームルーム活動やかぎまる人権 day において幅広い学習ができた。 ③ 延べ24名が各種研究大会に参加した。	(達成度) B  (所見) ①②③ともほぼ計画通り実施できた。	① 各課・各教科の協力もあり、人権教育の視点から様々な活動ができた。 ② あらゆる個人人権課題を学習することで、人権意識の向上につながった。 ③ 各種研究大会へ積極的に参加できた。	① あらゆる教育活動の中で人権教育の視点が意識できるよう努めていきたい。 ② 来年度も継続し、生徒・教職員の人権意識向上に努めたい。 ③ 各種研究大会に参加するだけでなく、報告書を作成し、参加していない教職員にも伝達できるようにしたい。
4	② 内容を精選し、充実した人権学習を展開する。	② 安心して楽しく学べる学習環境の整備に努め、豊かな人間性を育成し、学んだことを行動に結びつけることのできるスキルを養う。 (進路部・人権教育課)	① 教職員一人一人が豊かな人権意識を身につけ、人権感覚を磨くための研修の充実。 ② 校外行事等(地域やあいぽーと徳島が主催する行事)の案内。 ③ 人権意識調査、インターネット意識調査の実施。	① H31年度の市人権に向け学年全体が参加できる研究授業・研究協議を実施するとともに、研究授業実施者に指導案検討会を実施する。 ② 職員会議や職員朝会等で、各種行事の案内を適宜行う。(年30回以上) ③ 生徒の人権意識の変容をアンケート調査によって確かめる。	(評価指標による達成度) ① H31市人権に向けて、学校全体での研究授業・研究協議を12/14に実施した。 ② 年23回実施。 ③ 計2回実施。 (活動計画の実施状況) ① 県教委 澤田班長より指導いただいた。 ② 学校に届いた校外行事は、すべて職員に案内した。 ③ 4月と1月に実施した。	(達成度) A  (所見) ① 各学年団全員参加の研究授業・研究協議を実施できた。 ② 校外の行事を案内できた。 ③ 人権意識調査アンケートを年2回実施できた。	① 研究授業・研究協議をとおり、各学年団の教職員が人権問題に深い理解と認識を持つことができた。 ② 研究授業担当者が、市人研に参加することで研究授業に向け人権感覚を磨くことができた。 ③ 年度当初の実施については、特に1年生の実態を知ることができ、HR活動の計画に反映することができた。	① 研究協議では、先生方が発言の機会を確保できるように、各学年で年齢混合の8人程度のグループで協議するようにしたい。 ② 各種行事の案内を継続し、人権啓発に努めたい。 ③ 市人研の開催を見据えてアンケート内容について検討したい。
5	③ 相手やまわりの気持ちを理解し、他人を傷つけない精神を養う。	③ 生徒一人一人に居場所があり、安心して過ごせる場所であると実感できるクラスや学校全体の雰囲気づくりを行う。 (進路部・人権教育課)	① 人権集会(全体学習)を実施し、よりよい人権感覚を養う。 ② 中高生による人権交流集会に参加してその内容を学校全体に伝え人権意識の高揚を図る。	① 人権学年集会、人権全校集会等を行う。(年1回以上) ② 中高生の交流集会や校外研修での成果を、人権研究部員が人権新聞を発行するなどして全校生徒に伝える。	(評価指標による達成度) ① 人権学年集会を4回実施した。 ② 中・高生による人権交流集会の内容を科技高タイムズに掲載した。 (活動計画の実施状況) ① 1学年集会で1回、3学年集会で3回の計4回全体学習を実施した。 ② 人権問題研究部員が新聞部の協力により人権学習の成果を科技高タイムズに掲載した。	(達成度) B  (所見) ①②とも、計画通り実施できた。	① 3学年集会では、「就職差別」、「結婚差別」、「児童虐待(子どもの人権)」について、生徒の人権意識の高揚に努めることができた。 ② 人権学習の成果を科技高タイムズに発表することによって、人権啓発活動に努めた。	① 来年度は外部講師を招いての学習を積極的に取り入れたい。 ② 人権問題研究部員が、中・高生による人権交流集会に積極的に参加するなどして、自主活動の活性化を図りたい。

学 校 自 己 評 価								
年 度 目 標					年 度 評 価 ( 3 月 1 日 現 在 )			
番 号	重 点 課 題	重 点 目 標	活 動 計 画	活 動 の 評 価 指 標 ( 目 標 値 )	評 価 指 標 の 達 成 状 況	総 合 評 価	効 果 と 検 証	次 年 度 へ の 課 題 と 改 善 策
6	学習指導 ① 課題学習の工夫や個別指導を充実させることにより、基礎・基本の定着を図る。個別指導により、生徒間の差を是正していく。また、家庭学習等への取組も促す。	① 基礎・基本の定着を図り、それを活用した実践的な知識や技術を身につけさせる。 (教務部・教務課)	① 生徒の実態把握に努め、指導内容に創意工夫を生かしたり、内容の重要性や生徒の実態に応じて、アクティブラーニングの手法を用いたりするなどして生徒一人一人の能力を伸長する。また、必要に応じて義務教育段階の学習機会も適宜設ける。	① 学期末成績の平均点を昨年同時期と比較して、1%アップをめざす。また、今年度授業評価における理解度、興味関心のポイント数を0.1%アップをめざす。	(評価指標による達成度) 1・2学期末の全教科平均と昨年同時期の全教科平均と比較してそれぞれ0.3%、0.6%アップとなりほぼ横ばいの成績となっている。 (活動計画の実施状況) アクティブラーニングの手法を用いた授業を実施しており、興味関心を増すように取り組めた。また、放課後遅くまで、個別指導を行うなど、生徒一人一人の能力の伸長に努めた。	(達成度) B  (所見) 授業に対する興味関心は増加したが、結果に結びつかないところもあった。	① アクティブラーニングの手法を用いた授業を実施し、興味関心の増加や言語活動の充実、生徒をきちんと見据えた授業を実施しているため、意識調査では、「自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりしていると思う」、「先生は、あなたのよいところを認めてくれている」が昨年度に比べて増加している。	① 意識調査の結果からは生徒の自己肯定感を増加させるような教員の姿勢や言語活動を意識した授業が実施されていることがわかる。 興味関心だけでなく、知識の定着や、より高度な内容にも挑戦するような取り組みも必要である。

7	② 授業や面談等を通じて具体的に「学びの指針」を示し、学習意欲を喚起するとともに、学習習慣の確立を図る。 (教務部・教務課)	② 自主的に学習に取り組む態度を育むため、生徒の学習の進め方や現状課題を確認する活動を計画的に取り入れ、家庭においても学習の見通しを立てて予習したり復習したりする習慣の確立を図る。	②-1 今年度授業評価における自己評価のポイント数を、昨年度の0.1%アップをめざす。 ②-2 今年度意識調査における家庭学習1時間以上のポイント数を、昨年度の5%アップをめざす。	(評価指標による達成度) ②-1 授業評価における自己評価の「授業準備」が3.8と高く、「試験勉強」では3.4と昨年度と同等であった。 ②-2 意識調査では、「1時間以上勉強している」が1年が6%、2年が12%増加し、3年は4%減っている。 (活動計画の実施状況) ② ① 1週間前の休日から家庭学習に取り組むように担任から働きかけた。	(達成度) B  (所見) 自己評価では昨年度とほぼ同様の結果であったが、意識調査では家庭学習の時間が増加しており、試験勉強の努力が必要であるという自覚が伺える。	② ① 1週間前の休日から家庭学習に取り組むように担任から働きかけた。授業等でも、学習意欲を喚起し、授業に対する準備や家庭学習に結びつけ、結果として学力の向上につながる取組が必要である。
	③ 将来を見据えた望ましい職業観を育成し、主体的に他者と協働して学習する態度を育てる。 (教務部・教務課)	③ ① 類での専門教育や職業内容の研究を通して、将来の就職等への具体的な目標を持ち、その達成のために自主的に学習に取り組む態度を育む。 また、実験・実習をとおして人間関係形成・社会形成能力を育む。	③ 今年度授業評価における自己評価のポイント数を、昨年度の0.3%アップをめざす。	(評価指標による達成度) ① 授業評価における自己評価の「授業態度」では昨年度と同様に3.6と高かった。また、「記録、提出物」も3.7と高い結果となった。 (活動計画の実施状況) ① 資格試験やコンクール等に積極的に取り組むことで、高い意識を持ち続けている。また、大学との連携を通して、研究の深化も達成できた。	(達成度) B  (所見) ① 資格試験やコンクールに積極的に取り組み、意識は高く維持できているが、結果が出ないところもあった。	③ ① 資格試験やコンクール等に積極的に取り組むことで、意識は高く持ち続け、主体的に学習する姿勢を育成できている。また、自分の進むべき、進路についても具体的に考えることができています。
8	④ 読書の奨励を図り、基礎学力の向上と生涯にわたって学び続ける能力を育てる。 (教務部・教育情報課)	④ ① 図書館の積極的な活用を図り、読書の奨励を行う。	④ ① 図書貸出数が月間300冊以上をめざす。	(評価指標による達成度) ① 平均月間貸出数379冊 (活動計画の実施状況) ① 新入生オリエンテーション図書館日より発行(10回)コース別推薦図書リスト作成(4種) ① 図書展示・読書推進イベント ① 県立図書館との連携 ① 読書感想文課題の実施 ① 各種コンクール応募案内 ① 図書委員会活動として推薦図書リスト作成(2回) ① 文化祭展示	(達成度) A  (所見) ① 月間貸出冊数は昨年度とほぼ同数を維持し、目標値を超えることができた。	④ ① 新入生オリエンテーションや、広報・展示・イベントにより図書館に興味を持たせ、貸出数に繋げることができた。 ① 教科やコースでの図書館利用が、幅広いジャンルの図書の貸出に繋がった。 ① 図書委員会活動に自主性が見られるようになった。

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標				年 度 評 価 ( 3 月 1 日 現 在 )			
番号	重点課題	重点目標	活動計画	活動の評価指標 (目標値)	評価指標の達成状況	総合評価	効果と検証
9	生徒指導 ① ① 基本的な生活習慣を身につけさせる。遅刻者数を減少させる。最低限昨年度の数値を維持する。また、家庭との連携を密にする。	① ① 基本的な生活習慣の確立を図り、時と場に基づいた礼儀・あいさつ・言葉遣いを身につけさせるとともに、遅刻回数減少から規則正しい生活リズムを構築させる。 (指導部・生徒課)	① ① 遅刻カードを用いた遅刻指導を徹底する。家庭との連携により、規則正しい生活習慣を身につけさせる。 ② ① 外来者へのあいさつを徹底する。また、集会時において、8Sの一つである「躰」を徹底する。 ③ ① 問題行動の未然防止に努める。	① ① 月間登校時遅刻率を1.0%未満とする。(1日当たり9.0人) ② ① 毎月5日間、コース長、学年主任(学年副主任)、当日直で正門にて登校時の身だしなみ指導を実施する。 ③ ①-1 毎時休憩時間において輪番制による校内巡視を実施し、各教室の施錠および生徒の生活状況を確認し防犯等に努める。 ③ ①-2 HR 担任と日直が連携し、放課後の教室施錠を徹底する。	(評価指標による達成度) ① ① 1日の遅刻者平均は、3.7人で0.41%であった。 ② ① 毎月初めに5日間実施し、登下校時身だしなみ指導を類・コース長、学年主任で行った。 ③ ① 各授業開始直後に各教室の施錠確認および校内巡視を実施した。また、昼休み時間は、校内の主要な門において巡視も行った。 (活動計画の実施状況) ① ① 計画通り実施できた。 ② ① 担当教員と連携し計画通り実施できた。 ③ ① 担当教員と連携し計画通り実施できた。	(達成度) B  (所見) ① 計画通り実施できた。	① ① 数値的には目標達成することができた。一昨年度・昨年度を遅刻数は下回ったものの、月別においては6月・12月・1月と遅刻数が上回った。年度末に向け、油断できない傾向にある。 ② ① 登下校時の身だしなみは正せたものの、校内における服装の乱れが若干目立った。 ③ ① 各クラスの施錠状況は良かったものの、生徒自らが責任をもって貴重品などを管理する指導が必要となった。
10	② ① 遵法精神の	② ① 定期的に規律指導を	① ① 一人一人が充実した学校生	① ① 規律指導を毎月初めに実施	(評価指標による達成度)	(達成度)	① ① 規律指導以外において、 ① ① 規律指導カードを迅速

	涵養と意識の高揚と知識の定着を図る。また、全教職員が温度差のない指導が行えるようにする。	行い、ルール遵守から集団生活の規律向上に努める。自ら率先して考え、判断・行動のできる能力を育てる一助とする。 (指導部・生徒課)	活を送る中で自分を大切にすることが他人を思いやることにつながることを気づかせる。 ② 喫煙・飲酒・薬物乱用防止に対する講話、携帯電話・スマートフォン(WEB 関係を含む)安全教室、制服を美しく着こなすセミナーを実施することで、心の躰を向上させる一助とする。	し、指導を徹底する。各回とも違反者については、一定期間内で完全に直させる。 ② 喫煙・飲酒・薬物乱用防止に対する講話、携帯電話・スマートフォン(WEB 関係を含む)安全教室や制服を美しく着こなすセミナーを開催し意識の高揚と知識の定着を図る。	① 規律指導に抵触した生徒は少なくなった。一部で軽微な違反が見られたものの、期日内に改善することができた。 ② 意識の高揚と知識の定着が見られた。 (活動計画の実施状況) ① 計画通り実施できた。 ② 計画通り実施できた。	B (所見) 計画通り実施できた。	男子の頭髪・シャツ出し、女子の化粧・スカートの巻き上げが目立った。 ② 各講演を真剣に聞くことができ、学校生活や家庭生活に活かすことができた。	に集計し、それを活用した指導体制を整える。また、担任を通した保護者との連携を密にし、軽微な違反を見逃さない指導を実践していく。 ② 本年度通り実施する。より一層の意識の高揚と知識の定着を望める講演を計画していく。
11	③ 交通道徳を遵守させ、登下校時の交通安全指導を徹底させる。	③ 「学校安全の日」、「交通マナーアップクラブ」及び所轄警察署の指導等を通して、交通安全教育の一層の徹底を図る。 (指導部・生徒課)	① 毎月20日を「学校安全の日」とし、教職員、保護者と生徒課員が連携して通学時に混雑が予想される場所において登校指導を行う。 ② 自転車の点検や駐輪場での施錠確認、駐輪状態確認を行う。交通安全教育を充実し、道路交通法を遵守させる。 ③ 生徒を主体とした交通マナーアップ運動の推進を図る。	① 年間を通して、日直と生徒課員が、正門を含め学校近隣で、登下校指導を行う。特に、毎月20日には、輪番制で各学年 PTA 役員と教職員が共同で登校指導を行う。 ② 年間5回の自転車点検を実施する。駐輪場における自転車施錠の習慣と駐輪状態の整理整頓を身につけさせる。傘差し運転の禁止と雨合羽着用の指導を繰り返す。 ③ 生徒会、交通委員によるあいさつ運動と生活委員による駐輪場の整理・整頓を行う。	(評価指標による達成度) ① 登下校指導をはじめ、毎月20日に行う交通安全指導を多くの教職員の協力を得て実施できた。 ② 年間5回の自転車点検に加え、1学年は自転車安全整備士による訪問点検を実施できた。また、5月下旬にスタントマン実演の交通安全教室を実施し、交通マナーを学ぶことができた。 ③ 例年通り、生徒会や各種委員と連携した取組を行うとともに、新聞編集部の協力を得ることができた。 (活動計画の実施状況) ① 概ね実施できた。 ② 計画通り実施できた。 ③ ほぼ計画通り実施できた。	(達成度) B (所見) 計画通り実施できた。	①② 登下校指導や交通安全指導などにより、学校近隣における交通マナーの向上がはかれたものの、歩行者や近隣住民からの指導も若干あった。また、交通安全教室や自転車点検を充実することができた。 ③ 新聞編集部と協力し、科技高タイムズに本校で自転車事故にあった生徒の分析結果や事故防止対策を掲載し、全生徒に注意喚起できた。	①②③ 登下校指導を全教職員が協力し、実践できる指導体制を確立していく。また、駐輪場における自転車の施錠・整理整頓、交通マナーの向上を各種委員会と連携するなか強化していく。自転車事故防止標語や事故に遭遇したときの対応を明記したカードを生徒全員に配布し、自転車事故減少に努めていく。
12	④ 生徒が安全で安心して生活できる教育環境を整え、自己実現の一助とする。	④ 教育活動全体を通して、全生徒に「いじめは決して許されないこと」との理解を促し、心の通う人間関係を構築する能力の素地を養う。 (指導部・生徒課)	① 定期的に校内巡視を行い、いじめの未然防止に努める。またいじめ・体罰被害アンケート調査を各学期末に実施する。	① 各学期末に、年合計3回のいじめ・体罰被害アンケート調査を実施する。また毎時休憩時間に輪番制による校内巡視を実施し、生徒の生活状況を確認する。	(評価指標による達成度) ① 年間行事の各学期末に、HRを設定しいじめ・体罰被害アンケート調査を実施した。 (活動計画の実施状況) ① 計画通り実施できた。	(達成度) A (所見) 計画通り実施できた。	① アンケート調査結果から迅速に対応し、生徒からの相談、悩みに対して組織的に対応し解決の糸口となった。	① 本年度通り実施する。常に「いじめは絶対に許さない」という強い信念を持ち、些細な生徒からのシグナルを見落とさないように心掛けておく。

学 校 自 己 評 価								
年 度 目 標				年 度 評 価 ( 3 月 1 日 現 在 )				
番号	重点課題	重点目標	活動計画	活動の評価指標 (目標値)	評価指標の達成状況	総合評価	効果と検証	次年度への課題と改善策
13	進路指導 ① 将来を見据えた望ましい職業観・勤労観の育成と、生徒一人一人に対応した柔軟な進路指導を展開する。	① 進路への興味・関心を喚起し、将来を見据えた望ましい職業観・勤労観を養う。 (進路部・就職課・進学課)	① HRへ各種進路情報を提供する。	アンケート調査 ① HRへの情報の提供満足度 3.6以上。(4段階)	(評価指標による達成度) ① 本年度の学校評価アンケートの結果から生徒94.1%、保護者85.8%の高い満足度が得られた。 (活動計画の実施状況) ① 必要に応じ随時実施した。	(達成度) A (所見) ① 概ね目標は達成できた。	① 就職、進学共に過去の進路データの提供、また、学校や企業訪問における進路情報を適宜提供することで、情報の共有ができた。生徒の進路実現および生徒自らが考えるきっかけとなった。	① 進路実現に対する生徒の意識をさらに高めるために、オープンキャンパスや工場見学の機会を増やすだけでなく、実施時期を1、2年次にも実施するなど、早めの対応も検討する必要がある。
14	② 求人企業の確保と進学に向けての適切な指導を行う。	② 生徒一人一人の能力・適性、興味・関心に対応した組織的・継続的な進路指導を展開する。 (進路部・就職課・進学課)	① 生徒一人一人の理解を深めるために個人面談・アンケート調査を実施する。 ② 生徒の希望や能力に応じた進路保障を実現するため、進学・就職補習および進路相談を充実させる。	アンケート調査 ① 個人面談・アンケート調査への満足度 3.6以上。(4段階) ② 補習・進路相談に対する満足度 3.6以上。(4段階)	(評価指標による達成度) ①② 本年度の学校評価保護者アンケート結果から87.7%の高い満足度が得られた。 (活動計画の実施状況) 個人面談は各担任により4月より継続的に実施できた。 進路希望アンケート調査は、3年生で4月～7月の4回、1・2年生で4月と9月の2回実施した。	(達成度) A (所見) ① 個人面談は各クラスで継続して十分に実施できた。 ② 補習は年間計画通りに実施できた。	① 1、2年次より適宜進路に対する面談を実施し、特に3年次には4月から継続的に面接を実施することにより、進路に対する意識の向上が図れた。 ② 昨年度より実施した放課後の進学補習を今年度も実施したことで、早期からの進学意識の向上につなげることができた。昨年度と同様に夏休みに特別補習を実施し、進学希望者への継続的な指導を行った。	① 個人面談の回数は各クラスの実態に応じて実施する必要があり、コース長の協力を得て、来年度も継続的な個人面談を実施する必要がある。 ② 今年度も技術系の進学希望者が増え、教室の確保が困難であった。コースの協力により一部の特別教室を進学補習に使用することで対応できた。

15	③ 進路達成に向けて学習指導の充実を図る。	③ 生徒生活実態調査を年3回実施し、生徒の家庭での生活を把握し、改善に努める。 (進路部・就職課・進学課)	① 6, 11, 2月にそれぞれ調査を実施し、HR担任と生徒との面談の資料として活用し、主体的な取組が行えるように促す。	①-1 技術系の平日の家庭学習時間を1時間以上、休日の家庭学習時間を2時間以上。 ①-2 科学系の平日の家庭学習時間を2時間以上、休日の家庭学習時間を3時間以上。	(評価指標による達成度) ①② 学習時間0時間が全体の23.3%(平日), 17.8%(休日)であり、厳しい現状にあるが、昨年度(22.3%(平日), 19.7%(休日))と比較して休日の学習時間に改善がみられた。 (活動計画の実施状況) 科学系についてはほぼ目標通り達成できている。休日の時間についてはまだまだ改善の余地がある。	(達成度) B  (所見) 予定どおり実施できた。家庭学習時間はまだまだ少なく、改善する必要がある。	①-1 生徒の家庭での生活を把握する面では効果があった。また、家庭で学習している生徒とそうでない生徒の2極化がみられた。 ①-2 科学系は生活記録ノートを提出させる指導を行っており、HR担任との個人面談を定期的に行い、家庭学習の把握に努めている。	①-1 クラス単位、コース単位で学習時間向上に向けてのきっかけづくりとして活用すべきであるが、活用が難しいのであれば個人面談週間等を設けて生活実態調査が活用できる機会を作るべきである。 ①-2 科学系については生活記録の提出についてHR担任の徹底した指導で以前に比べて定着しており、家庭学習の習慣づけにつながっている。学習の内容についてはさらに検討すべきである。
16		④ 進路ガイダンスや講演会等を通して、キャリア教育の充実を図り、社会人として自立できる資質や自ら進路を決定できる能力を養う。 (進路部・就職課・進学課)	① 生徒の希望に沿ったガイダンスを各学年にて実施する。 ② 進路講演会等により、勤労観、職業観を養い、職業に対する意識の高揚を図る。	① 進路ガイダンス実施後満足度 3.6以上。(4段階) ② 進路講演会等実施後満足度 3.6以上。(4段階)	(評価指標による達成度) 実施後のアンケートも概ね生徒からも好評であった。 (活動計画の実施状況) ① 大学の先生や進学情報会社の講師を招き、実施できた。 ② 本校の卒業生による講演会や地元企業の協力による出前授業などを実施した。	(達成度) A  (所見) ① 進路ガイダンスは計画通りに実施できた。 ② 進路講演会は必要に応じて講師を招聘して実施できた。	①② 今年度初めて校外で行われた進路ガイダンスに進学希望者全員で参加した。多くの学校を知る良い機会となり進路意識の向上につながることができた。講演会では企業で活躍する卒業生からの貴重な経験を開けたことは将来の目標を考える上で貴重なものとなった。	①② 最新の情報や話題は生徒にとっても魅力的に感じており、進路意識の醸成につながっていた。校外の進路ガイダンスは他校生とも交わる機会であり、意識の向上に役立った。ただ、時間をもたずあまっていた生徒もおり、もう少し時間を短くしてもよかった。また小論文講演会や模試を実施することで文章を読んだり書いたりすることの必要性を感じる良いきっかけとなった。 卒業生を招いての講演会を、今年度も全クラスで実施することができた。次年度もできる限り多くのクラスで実施する必要がある。

学 校 自 己 評 価

年 度 目 標				年 度 評 価 ( 3 月 1 日 現 在 )				
番号	重点課題	重点目標	活動計画	活動の評価指標 (目標値)	評価指標の達成状況	総合評価	効果と検証	次年度への課題と改善策
17	教育相談・特別支援教育 ① 相談・支援活動を充実させる。	① 生徒の変化を見逃さない。 (指導部・教育相談課)	① 生徒の出席状況の把握と支援の検討。 ② 専門機関との連携。	① 欠席の続く生徒に関して適切な対応を検討する。 ② 必要に応じて専門機関との連携を図る。	(評価指標による達成度) 概ね実施できた。 (活動計画の実施状況) ①-1 1学期にクラスの状況を把握することで、特別な支援を必要とする生徒への対応をすることができた。 ①-2 毎日の生徒の欠席状況から生徒の状況を把握し、関係する教員と連携し管理職へ報告できた。 ② 本年度配置された常勤スクールカウンセラーを活用できた。	(達成度) B  (所見) ほぼ計画通りにできた。	①② 毎日の生徒の欠席状況を把握することで、生徒の状況を担任や関係する教員と共有し、保護者やスクールカウンセラーとうまく連携できたケースもあった。また、養護教諭も含めて情報交換をし、そのことによってより多面的に生徒の状況を把握することができた。	①② 次年度も引き続き生徒の欠席状況や保健室利用状況を把握することで、早期に生徒の問題を見つけ、スクールカウンセラーなどを活用した対応をする。
18		② 相談活動を充実させる。 (指導部・教育相談課)	① 教育相談室の放課後利用。 ② 相談事業の広報。	① 毎週火・水・金に相談室を開室する。スクールカウンセラーを活用した教育相談室の利用を図る。 ② 「ほっとだより」を各学期1回以上発行する。	(評価指標による達成度) ① スクールカウンセラーが放課後の相談に対応し、新しい相談活動ができた。 ② 1学期は、生徒に直接スクールカウンセラーを紹介することで広報活動をした。2・3学期は「ほっとだよ	(達成度) A  (所見) 新しい活動ができた。	①-1 スクールカウンセラーと教育相談・特別支援コーディネーターのミーティングを週1回開催し、相談室開放が円滑にできるようにした。 ②-1 「ほっとだより」は、放課後の教育相談を	① 引き続き、ミーティングを週1回開催する。 ② 「ほっとだより」は、次年度も生徒の手書きイラストを取り入れたい。

					り」を計画通り発行できた。 (活動計画の実施状況) ① スクールカウンセラーが放課後の相談に対応し、相談活動ができた。 ② 「ほっとだより」は、生徒の手書きイラストも入れて、手作り感のある「ほっとだより」が計画通り発行できた。		推進する上で大切な役割を持つため、生徒の認知度を高める内容作りに努めることができた。
19	③ 学校全体での支援体制の充実を図る。 (指導部・教育相談課)	① 校内研修会の開催。	① 校内研修会を年1回以上開催する。 ② 校外研修会への参加を呼びかける。	(評価指標による達成度) ① 1回開催できた。 (活動計画の実施状況) ① 本年度は「学校カウンセリング」について講演をスクールカウンセラーから聴き、理解を深めた。 ② 掲示を通じて広報したり、職員朝礼時に全教員に研修会を連絡したりできた。	(達成度) B  (所見) ほぼ計画通りにできた。	① 一学期は人権教育課と教育相談課の共催で校内研修会を開催した。 ② 校外研修に参加することによって、最新の研究に触れ、本校の教育相談業務に生かすことができた。	①② 次年度も引き続き、その年度の生徒の必要に応じた内容の研修会を開催したり、参加したりしたい。
20	環境教育 ① 各クラスの環境整美委員を中心にHR担任や清掃分担の教員の協力のもと日頃の清掃指導の徹底を行う。	① 日々の清掃活動の充実を図り、美しい環境が整った学校づくりに努め、次に使う人の立場に立った「いつもきれいに清掃で心を磨く科技高生」の実践を行う。 (特活部・環境教育課)	① 校内美化週間期間中、環境整美委員を中心に清掃の徹底、ゴミ分別の徹底、ロッカー・掲示物の整理整頓等丁寧に行う。 ② 学校行事(体育祭、文化祭)などの際に発生する、ゴミ問題について、環境整美委員会を中心とした環境美化に関するモラルやマナー「マナーを守り、自分のゴミは持ち帰る。」の啓発活動を行う。	① 日頃の清掃、ゴミの分別の徹底、ロッカー・掲示物の整理整頓がなされたか。 ② 校内への泥汚れ侵入禁止。 ③ 学校行事(体育祭、文化祭)などの際、環境美化やゴミ問題に対するモラルやマナーが守れたか。  (評価指標による達成度) ① 日頃の清掃状況について ・毎日清掃が良くできた。 85% ・ゴミ分別が良くできた。 90% ・掲示物、ロッカーの整理整頓が良くできた。 78% ② トイレの使用状況が多少悪化しているように思う。 ③ 学校行事について ・体育祭でのモラルやマナーが守られた。 87% ・文化祭でのゴミ分別は守られた。 84% (活動計画の実施状況) ① 各クラスの環境整美委員を中心にHR担任の指導のもと清掃の徹底・ゴミ分別の徹底によく取り組んだ。 ② 学校行事について 環境整美委員は、体育祭、文化祭共清掃や啓発活動を率先して頑張った。	(達成度) B  (所見) 評価指標関係について、多少改善しなくてはいけない。 ① 清掃の徹底・掲示物・ロッカーの整理整頓に多少の改善点が必要である。 ② 毎日のトイレ清掃は、概ね達成できた。 ③ 体育祭のモラルやマナーが多少改善したように思う。 文化祭については、多少改善しなくてはいけない。	① ・日頃の清掃活動について 「清掃が大変良くできた。」「よくできた。」 含め 85% 「多少改善点がある」 15% 多少改善しなくてはいけない。 ・ゴミ分別について 「ゴミ分別が大変良くできた。」「よくできた。」 含め 90% 「多少改善点がある。」 10% 今後もゴミ分別に対する意識の高揚に取り組まなくてはならない。 ・掲示物、ロッカーの整理整頓 「掲示物、ロッカーの整理整頓が大変良くできた。」「よくできた。」 含め 78% 「多少改善点がある。」 22% ロッカーの上が散らかっていて改善点が多い。 ② 学校行事について ・文化祭 「校内でのゴミ散乱が少しあった。」「あった。」 含め 49% 「模擬店でのゴミの分別 多少改善点がある。」 「改善点がある」 含め 16% ・体育祭 「競技場内でのゴミ散乱が少しあった。」 「あった。」 含め 31% 「マナーを守り、各自のゴミは、持ち帰る。」 「多少改善点があった。」「改善点があった。」 含め 13% 文化祭では、入場者や生徒たちへのマナーやモラルの高揚を行わなくて	① 各クラスの環境整美委員会を中心にHR担任や清掃分担の教員の協力のもと指導の徹底を行う。また、アンケート調査等で清掃分担場所の清掃状況を把握し、環境美化週間等に反映していきたい。 ② 学校行事である文化祭・体育祭等でも例年以上に啓発活動を実施していかなくてはならない。 ③ 環境整美委員会を随時開催していきたい。

							はならない。 体育祭ではごみ散乱状況が悪化しているためゴミを出さない工夫が必要である。引き続き啓発活動を実施していく必要がある。 ③ 環境整美委員会を年間5回実施し、係活動では概ね良くできた。	
21	防災教育 ① 防災委員、防災クラブの活動をベースとして、災害時に命を失わない、役に立つ心を育成する。	① 地域と共に防災活動を行い、社会の一員として、求められている防災マインドを育てる。 ② 災害時をふくめ、社会で主体的に動ける心を育てる。(防災教育)	① 地域と共催の防災訓練を企画、実行する。 ② 災害時に必要な器具等を使う訓練を日常から行う。	① 2カ所以上の他団体と共催し200名以上の参加をめざす。 ② 炊き出し訓練や日頃の準備として、効率面、衛生面、実用面などを考慮した器具等を選別、使用出来ることをめざす。	(評価指標による達成度) ① 3カ所の他団体、約320名の参加があった。 ② 約400名の炊き出しをスムーズに行った。 (活動計画の実施状況) ① 青葉保育園75名、千松幼稚園208名、地域住民50名、消防署員2名、警察官10名の参加で、本校生徒が誘導し地域合同の避難訓練を行った。その後、千松幼稚園は本校にて保護者引渡訓練を実施した。 ② 約400名分の給湯から後片付けまで、3年防災クラブ員20名が行った。 ③ 本年度計画になかったが、県の「まなぼうさい活動賞」に応募し、知事賞を受賞することができた。また、本校生徒が製作した「防災避難パネル」を設置することができた。	(達成度) A  (所見) 計画通りの活動ができた。	① 生徒の自主性、優しさ、行動力には目をみはるものがあった。 ② 配付される側の訓練も含んでいるが、秩序をしっかりと守って迅速な行動がとれた。「まなぼうさい活動賞」の受賞は日頃の生徒の活動が評価され、意識が高まった。	①、②に関して、来年度も実施していく予定であるが、防災教育に終わりではなく、より斬新的な内容で、意識高揚に努めていきたい。また、地域において実質的な防災力を発揮する発信源になっていく努力をしていきたい。

学 校 自 己 評 価

年 度 目 標				年 度 評 価 ( 3 月 1 日 現 在 )				
番号	重点課題	重点目標	活動計画	活動の評価指標 (目標値)	評価指標の達成状況	総合評価	効果と検証	次年度への課題と改善策
22	保健安全教育 ① 保健安全に関する指導・情報提供を行う。 ② 生徒保健厚生委員会による環境整備・安全点検を行う。	① 生涯を通して、健康で活力がある生活を送るために、健康の保持増進に関する指導の充実を図る。 (特活部・保健厚生課) ② 生徒保健厚生委員会を中心に、教室内の環境整備・安全点検、AEDの定期点検等を実施する。 ③ 学校行事における保健安全活動を充実させる。 (特活部・保健厚生課)	① 定期健康診断や保健だよりの発行等により健康に関する情報提供を行う。 ② 生徒保健厚生委員会を中心に、教室内の環境整備・安全点検、AEDの定期点検等を実施する。 ③ 学校行事における保健安全活動を充実させる。 (特活部・保健厚生課)	①-1 定期健康診断受診率100%。 ①-2 保健だよりの発行。(月1回) ②-1 生徒保健厚生委員会活動。(月2回) ③-1 HR活動等における保健講演会の開催(年1回) ③-2 文化祭における保健展を開催する。 ③-3 学校献血の実施。(年3回)	(評価指標による達成度) ①-1 定期健康診断受診率100% ①-2 保健だよりを月1回発行 ② 生徒保健厚生委員会活動を月平均3~4回実施 ③-1 歯科講演会(1年)の開催(年1回) ③-2 文化祭における歯科保健展の開催 ③-3 学校献血を年3回実施 (活動計画の実施状況) ①-1 未受診者に対して定期健康診断の意義を繰り返し説明し、学校医・歯科医の協力により、受診率を100%にすることができた。(長期欠席者を除く) ①-2 保健だよりを月1回、特別号を年2回発行した。 ②-1 安全点検だけではなく、定期健康診断や文化祭保健展、エイズ予防啓発活動、風邪予防等、様々な機会を捉えた活動ができた。	(達成度) B  (所見) ③-1以外は概ね計画通りだった。 ③-1については、講師の予定や学校行事との調整がうまくできなかった。年度当初から計画的に進めていく必要がある。	①-1 未受診生徒に対し定期健康診断の意義を繰り返し説明し、学校医・歯科医の協力により、受診率を100%にすることができた。 ①-2 保健だよりだけではなく、健康診断や文化祭等の学校行事により、機会を捉えた情報提供が行えた。 ② 生徒保健厚生委員会活動により、定期健康診断の準備・片付けや、文化祭保健展の活動、学校内の環境整備・安全点検等が行えた。 ③-1 専門家を招いて歯科講演会を開催することで、健康・安全に関する関心が高まった。 ③-2 文化祭での歯科保健展を開催することで、歯科保健についての情報提供が行えた。 ③-3 学校献血を年3回実施することで、献血の意義と献血の現状を理解	①-1 定期健康診断の重要性・必要性を伝え、次年度も受診率100%をめざすとともに、二次検査(精密検査)の受診率の向上を図る。 ①-2 月毎の保健だより発行だけでなく、学校行事等の機会を捉えた保健指導により情報提供を行う。 ② 生徒保健厚生委員会活動、環境整備・安全点検の活動だけにとどめず、学校行事における保健活動で活躍できるような内容を検討する。さらに、保健活動のリーダーとなって活躍できる生徒の育成をめざしたい。 ③-1・2・3 引き続き講演会や文化祭の保健展、献血推進活動を開催し、健康・安全に関する関心を高める。

					③-1 専門家を招いて、歯科講演会を開催したが、講演会は年1回しか開催できなかった。 ③-2 学校歯科医等の協力により、文化祭での歯科保健展を開催し、たくさんの来場者があった。 ③-3 学校献血を年3回実施し、延べ202名(昨年度215名)の生徒・教職員が献血に協力することができた。		でき、献血を身近なものとして捉えることができるようになった。	
23	特別活動 ① 特別活動への生徒の自主的な取組を充実させる。	① 生徒自ら率先して各種活動に取り組むことのできる学校行事、生徒会活動の充実に努め、集団活動を通してコミュニケーション能力の向上を図る。	① 生徒による集会時の司会進行、記録、挨拶を今以上に取り入れ、自主的に運営できるように指導する。 ② 文化祭・体育祭の内容の多様化・充実化を図り、生徒が意欲的に取り組む学校行事をめざす。 ③ みちピカ事業で周辺地域への清掃奉仕活動を行い、仲間と協力して活動ができる能力を身につける。	① 生徒総会、壮行会、予餞会を生徒が100%運営する。  ② 文化祭への生徒の満足度90%。 体育祭への生徒の満足度85%。 ③ みちピカ事業参加者平均70名。	(評価指標による達成度) ① 生徒総会、壮行会、球技大会、予餞会は生徒が自主的に運営できた。 ② 文化祭への生徒の満足度97% 体育祭への生徒の満足度98% ③ みちピカ事業参加者平均208名 (活動計画の実施状況) ① 生徒会執行部を中心に、主体的に活動できた。 ② 体育祭・文化祭ともに、クラスやコースで工夫が見られ、それぞれの特色が生かされた取り組みであった。 ③ 6回の実施で、学校周辺を中心に丁寧な清掃を行った。	(達成度) A  (所見) ① 各行事で生徒会が中心となって運営できた。 ② 文化祭・体育祭ともに目標の満足度を達成した。 ③ 目標の参加者数を上回ることができた。	① 各行事で生徒の自主的な運営による活動が展開できた。 ② 体育祭ではコース対抗で1学年から3学年が協力して活動することで、縦のつながりが強化され、生徒の満足度も高まった。 文化祭は各コースによる企画で本校の特徴を生かした内容の充実を図った。 ③ みちピカ事業は6回の実施で、平均208名の参加があり、昨年度を上回る平均人数となった。	① 生徒会役員会を定期的に開催し、生徒会の自主的な運営を更に強化していきたい。 ② 文化祭の満足度は高いものの、本校の特徴を生かした企画を生徒会役員と共に考えていきたい。 体育祭は、生徒の希望を取り入れた新たな種目を取り入れていきたい。 ③ 参加生徒に偏りが見られ、一部の者だけが活動しているため、様々な生徒が参加できる活動にしていきたい。
24	② 部活動の更なる活性化を図る。	② 部活動を充実・活性化させ、日々の活動を通して精神面、体力面での成長を図るとともに、団結心や協力心を育成する。(特活部・特別活動課)	① 部紹介・体験入部を実施し、部活動の入部を促進する。 ② 部活動の活動内容や成績を積極的に広報し、生徒の意欲を高め、校内の共通理解・協力体制を強化する。	① 入部率80%以上。 ② 表彰伝達を毎月行う。	(評価指標による達成度) ① 入部率94.1% ② 表彰伝達を年間12回行った。 (活動計画の実施状況) ① 部活動紹介で、各部1年生の入部を呼びかけるとともに、部活動見学週間を設定し、活動場所等の案内を行った。 ② 予定通り実施できた。	(達成度) A  (所見) ① 着実に入部率を高めることができた。 ② 部活動の活動内容や成績を積極的に広報できた。	① 各部・同好会の活発な取組が入部促進につながった。 ② 月1回、集会時に表彰伝達を行うことで運営の簡素化と時間短縮を実現した。他の部の活躍が刺激となり、各部好成績を残すことができた。	① 補習との両立を考え、更なる入部率の拡大に努める。 ② 様々な機会を利用して、部活動の活躍や取組を全校生徒に伝え、部活動の更なる活性化につなげる。

学 校 自 己 評 価								
年 度 目 標				年 度 評 価 ( 3 月 1 日 現 在 )				
番号	重点課題	重点目標	活動計画	活動の評価指標 (目標値)	評価指標の達成状況	総合評価	効果と検証	次年度への課題と改善策
25	工業・水産教育 ① 専門性の基礎・基本を重視するとともに地域や産業界と連携した教育の在り方を模索し、社会の変化や産業界の動向に適切に対応し得る人材の育成をめざす。	① 工業・水産教育のそれぞれの長を生かした教育を推進し、実験・実習や課題研究、インターンシップ等の体験的な教育活動を展開する。(各類・コース)	・情報科学コース ① オープンキャンパスや大学講義を受け大学との連携を密にするとともに、生徒の進路選択に役立つ。  ・環境科学コース ① オープンキャンパスや大学講義を受け大学との連携を密にするとともに、生徒の進路選択に役立つ。	・情報科学コース ①-1 大学と連携した講義やオープンキャンパスを年3回以上実施する。 ①-2 大学と連携した講義やオープンキャンパスの生徒アンケート実施結果で満足度が4段階で平均3.7以上をめざす。  ・環境科学コース ①-1 大学と連携した講義やオープンキャンパスを年3回以上実施する。 ①-2 大学と連携した講義やオープンキャンパスの生徒ア	・情報科学コース (評価指標による達成度) 遠足で2大学・2研究所訪問実施。 課題研究で高大連携実施。生徒満足度3.8 (活動計画の実施状況) 概ね予定通り実施できた。  ・環境科学コース (評価指標による達成度) 遠足で3大学訪問実施。徳島大学より教員3名、院生等10名を招き「実験講座」を実施した。	・情報科学コース (達成度) A  (所見) 概ね予定通り実施できた。  ・環境科学コース (達成度) A  (所見) SSHも絡み、	・情報科学コース 実際に大学を訪問することで大学の雰囲気がよく理解できた。Spring-8の研究を見学する等、科学の最先端に触れることで将来の研究や大学進学への期待を持たせることができた。  ・環境科学コース 大学と連携を図ることによって、直接大学の先生や学生たちと話ができて、生徒が大学について、知る良い機会となっている。このこ	・情報科学コース 生徒の進学への意識づけとして定着してきている。是非継続していきたい。新規の大学訪問を計画していきたい。また、科学技術に関心をもつような研究所等へ訪問し、学ぶ意義を考えさせたい。  ・環境科学コース 次年度も継続して行いたい。大学とは、化学系のほかにも連携を深め、より幅広い視野をもって取り組んでいきたい。

	ンケート実施結果で満足度が4段階で平均3.7以上をめざす。	大学の模擬講義に4ヶ月間1名が参加した。徳島大学主催「科学体験フェスティバル」に10名が参加した。 (活動計画の実施状況) ほぼ、計画通り実施できた。	地元大学との連携がよく図られ概ね目標を達成することができた。	とによって生徒の進学に対する意欲も向上している。	
・機械コース ① 工場見学において職場を見学する。また、インターンシップを通じて企業との連携を密にする。	・機械コース ①-1 大手企業の工場見学を全員に対して実施する。また、2年生の30%以上の生徒に対して、インターンシップを実施する。 ①-2 インターンシップ実施においては、生徒の希望する職場に応じた企業を斡旋する。	・機械コース (評価指標による達成度) 2, 3年生全員に対して、川崎重工業坂出工場の工場見学を実施した。また、2年生17名(50.0%)の生徒に対してインターンシップを実施した。 (活動計画の実施状況) すべての生徒に対して、ほぼ生徒の希望する職場で実施できた。	・機械コース (達成度) A  (所見) ほぼ予定通り、実施できた。	・機械コース 職業選択時の判断材料とするとともに、学習に対するモチベーションのアップや職業観の醸成に役立てることができた。 学校インターンシップは昨年度に引き続き、高い参加率であった。	・機械コース 生徒のニーズを十分調査し、今年度のノウハウを十分引き継ぎながら、次年度も、より良い内容となるよう、工場見学やインターンシップの受け入れ先を検討し、引き続き実施したい。
・生産システムコース ① 学習内容や就職先を勘察し、有意義な工場(職場)見学を行う。 ② インターンシップを通じて技術者として生きることを体験する。参加や企業については参加者の自主性を重んじることに重点を置く。	・生産システムコース ① 県内外企業の工場見学を全員に対して実施する。 ② インターンシップは2年生で行う。	・生産システムコース (評価指標による達成度) ① 県外の三菱自動車工業(株)水島製作所に全員参加した。 ② 2年生22名、企業9社にて各人2日間のインターンシップを実施した。 (活動計画の実施状況) ① 学習内容に沿った見学内容で効果的であった。 ② 生徒達の希望する職種での実施ができた。	・生産システムコース (達成度) A  (所見) 予定通りの実施ができた。	・生産システムコース ① 日頃の学習内容に沿った見学で、生徒の学習意欲が高まった。 ② 実際の職場での体験を通して、日頃の学習と進路決定の意欲を高めることができた。	・生産システムコース 引き続き、社会のニーズに敏感に応じていける人材育成をしていくとともに、生徒のニーズに応じていける内容を精査していきたい。
・電気コース ① インターンシップを通じて企業との連携を密にする。	・電気コース ①-1 インターンシップで2社以上に生徒が参加する。 ①-2 インターンシップの参加者によるHRでの報告会を実施し、体験内容を共有する。	・電気コース (評価指標による達成度) 2社 10名が参加 (活動計画の実施状況) ほぼ希望通りに実施できた。	・電気コース (達成度) A  (所見) ほぼ予定通り実施できた。	・電気コース 参加によって社会や職種に対する理解が深まり進路選択をより深く考えるようになった。	・電気コース 事前指導の充実をさらに図りたい。
・情報通信コース ① インターンシップを通じて企業との連携を密にするとともに、生徒の進路選択に役立てる。	・情報通信コース ①-1 インターンシップ体験後の生徒アンケート実施結果で満足度が4段階で平均3.7以上をめざす。 ①-2 インターンシップにHR生徒の2割以上が参加し、項目の6割以上で「良い」評価をめざす。	・情報通信コース (評価指標による達成度) 目標値を達成した。 (活動計画の実施状況) 7名の生徒が参加し、全ての生徒から「良い」を得た。	・情報通信コース (達成度) A  (所見) 高評価で、引き続き継続して欲しい旨の内容であった。	・情報通信コース 本コースでは実習しない3DCADの操作や、3Dプリンターへの出力などを体験できた。このことで、ICT系への関心が高まった。	・情報通信コース 次年度も継続していきたい。 新たな事業所を開拓し、映像やドローン関係にも見地を広げたい。
・環境土木コース ① 関係機関との連携を図りながら、インターンシップを実施し、生徒の専門に関する意識向上と進路選択に役立てる。	・環境土木コース ①-1 インターンシップ参加生徒数を2年生で40%以上とする。	・環境土木コース (評価指標による達成度) 10社に20名の生徒が参加した。  (活動計画の実施状況) よい経験ができ、進路選択にも役だった。	・環境土木コース (達成度) A  (所見) 新しく5社の企業の協力を得て参加し、高評価を得た。	・環境土木コース 近年、電子機器の発達がめざましく、実情に合う授業内容にするためには困難な状況にある。工夫しながら今後も取り組みたい。	・環境土木コース 次年度も生徒の進路希望に合わせて本年度同様に実施したい。
・建築コース ① インターンシップを通じて企業との連携を密にするとともに、生徒の進路選択に役立てる。	・建築コース ①-1 インターンシップに生徒の20%以上が参加できるようにする。 ①-2 インターンシップ体験後の生徒アンケート実施結果で満足度が4段階で平均3.5以上をめざす。 ①-3 3学期に課題研究発表	・建築コース (評価指標による達成度) おおむね目標を達成した。 (活動計画の実施状況) 見学や体験を通してほとんどの生徒が、仕事内容への興味や専門教科に関心を持つことが出来た。課題研究発表会を建築コース展で行った。	・建築コース (達成度) B  (所見) 昨年に引き続き建築士会と連携して設計コンペに参加することができた。	・建築コース 生徒は、働くことや進路について真剣に考えることができた。また、建築士会の方とのディスカッションで建築士の生の声を聞くことによって、建築業に対して理解を深めることができた。	・建築コース 次年度も継続していきたい。

			<p>会を行う。</p> <p>・総合デザインコース ① インターンシップや企業・大学訪問を通じて企業や大学との連携を密にするとともに、生徒の進路選択に役立てる。 ② 実習・課題研究を充実させ、コース展や各種コンペに参加し、対外的な活動を更に充実させる。</p>	<p>・総合デザインコース ①-1 インターンシップに生徒の20%以上が参加できるようにする。 ①-2 企業・大学訪問を実施する。 ②-1 H29年度コース展を実施し、地域・中学校などにPRする。 ②-2 それぞれのテーマに分かれた課題研究に取り組み、成果を出す。</p>	<p>・総合デザインコース (評価指標による達成度) ① インターンシップには参加することができなかった。 ダイハツ工業(株)のデザインルーム見学に2年生が参加した。 SSH 課題研究で10名が慶應義塾大学を訪問した。(活動計画の実施状況) ② コース展を実施し、400名近い来場者があった。また6次産業化プロデュース事業成果報告会において、地域、中学生に向けて活動をPRした。</p>	<p>た。</p> <p>・総合デザインコース (達成度) B (所見) インターンシップに関しては、生徒の希望にあった企業を見つけられなかった。コース展だけでなく、コンペやイベントに積極的に参加した。</p>	<p>・総合デザインコース ① 企業訪問、大学訪問を通じて、多様な進路を知ることができた。 ② コース展、コンペ、6次産業化プロデュース事業などのイベントに参加することによって地域や企業との連携を図ることができた。</p>	<p>・総合デザインコース インターンシップについては、進路に繋がるような企業との連携を行いたい。 対外的な活動については、次年度も継続していきたい。</p>
		<p>・海洋科学・海洋総合コース ① 関係機関と連携したフィールドワークやインターンシップを積極的に実施し、水産・海洋に興味関心をもたせる。</p>	<p>・海洋科学・海洋総合コース ① 漁業体験、フィールドワーク、インターンシップを実施し、実施後アンケートで水産・海洋に興味関心を持つようになった生徒の割合70%以上をめざす。</p>	<p>・海洋科学・海洋総合コース (評価指標による達成度) ① 授業評価で興味・関心を持った生徒の割合91%。(活動計画の実施状況) ① 大敷網体験2回、志和岐港内植生調査5回、吉野川河口生物調査1回、鮎喰川生物調査1回、中島中間育成場生物調査3回等を実施した。</p>	<p>・海洋科学・海洋総合コース (達成度) B (所見) ① 概ね達成できた。</p>	<p>・海洋科学・海洋総合コース ① フィールドワーク等をおとして、専門科目への興味・関心を高めることができた。</p>	<p>・海洋科学・海洋総合コース ① 次年度も継続して取り組んでいきたい。</p>	

学 校 自 己 評 価

年 度 目 標					年 度 評 価 ( 3 月 1 日 現 在 )			
番号	重点課題	重点目標	活動計画	活動の評価指標 (目標値)	評価指標の達成状況	総合評価	効果と検証	次年度への課題と改善策
26	工業・水産教育 ① 専門性の基礎・基本を重視するとともに地域や産業界と連携した教育の在り方を模索し、社会の変化や産業界の動向等に適切に対応し得る人材の育成をめざす。	<p>① 工業や水産に関する専門的な技能の習熟度を高め、技能の向上を図る。(各類・コース)</p> <p>② 専門的な知識・技能を身につける教育活動を展開し、各種資格や検定の合格者の増加を図る。(各類・コース)</p> <p>③ 各種競技会等へ積極的に参加し、専門性を高める教育を展開する。(各類・コース)</p>	<p>・全類全コース ① 各コースの実態に即して、スキル検定等の実施やものづくりコンテストへの出場をめざす中で、技能の向上に努める。 ② 資格取得を奨励し、資格補習を積極的に実施する。</p>	<p>① 各コース毎に、技能の向上をめざした取組をする中で、各種コンテスト・大会へ出場し、各専門分野での上位入賞をめざす。 ② 工業系では、「ジュニアマイスターゴールド」取得者15名以上、「ジュニアマイスターシルバー」30名以上をめざす。水産系では、指定資格の積極的取得をめざす。</p>	<p>(評価指標による達成度) (工業) ① 高校生ものづくりコンテスト県大会では各種目とも上位入賞を果たした。 ② ゴールド18名(昨年14)シルバー19名(昨年45)特別表彰 1名(昨年0) (活動計画の実施状況) (工業) ① 概ね達成できた。 ② 資格取得のための補習等を計画的に実施した。 (海洋) ① 徳島県及び四国地区 SSH 合同生徒研究発表会、東京都立戸山高校 SSH 生徒研究発表会、徳島県水産研究課成果発表会、四国及び全国水産海洋系高校生研究発表会、四国及び全国水産海洋系生徒意見体験発表会に参加し、発表を行った。 ② 資格補習を計画的に実施した。</p>	<p>(達成度) (工業) B (海洋) B (所見) (工業) ① 各種コンテスト大会へ出場し、その一部は上位入賞した。 ② 表彰者総数が前年度より35%減少した。 (海洋) ① 各種発表会に積極的に参加することができた。 ② 多くの生徒が積極的に補習に参加した。</p>	<p>(工業) 各コースにおける実習等でのスキルアップや資格取得のための補習も計画的に実施した。ジュニアマイスター取得目標値については、シルバー取得者が設定値に至らなかった。 (海洋) ① 発表会参加生徒については、他校生徒の発表から刺激を受け、学習への意欲が高まった。 ② 一人一人の生徒に年間資格取得計画を立てさせ、計画的に資格取得に取り組んだ。休まず補習に参加した生徒の合格率は高かった。</p>	<p>(工業) 次年度へ向けスキルの向上とともに、資格取得においては合格率の向上を図るため、指導法の工夫や生徒の目的意識を醸成していく必要がある。 (海洋) ① 各種発表会に参加し、発表内容について指摘を受けた点について、さらに深めて研究し、改善できるようにしていきたい。 ② 補習時間で学習したことを家庭で復習する習慣が身につくように指導していきたい。</p>
			<p>・情報科学コース ① 科目「実習」においては、口頭試問を実施し、自ら学び、考え、問題を解決する態度を育成する。 ② 資格取得を奨励し、資格補習を計画的に実施する。</p>	<p>・情報科学コース ① 期限内実習レポート提出率95%以上をめざす。 ②-1 情報技術検定2級の合格率が80%以上。 ②-2 ITパスポート試験合格5名以上、基本情報技術者</p>	<p>・情報科学コース (評価指標による達成度) ① 提出率 98% ② 情報技術検定2級 58% ITパスポート合格なし 基本情報技術者合格なし</p>	<p>・情報科学コース (達成度) B (所見) ① ほぼ全員が期限内までに提出で</p>	<p>・情報科学コース 大多数の生徒が実習後、速やかにレポート提出を完了する習慣を身につけた。口頭試問により内容の理解度もあがった。 資格試験に挑戦すること</p>	<p>・情報科学コース 極わずかな生徒が提出期限に間に合わない。粘り強く指導し、今後も継続していく。 情報技術検定は昨年より合格率が下がり検討課題で</p>

<p>③ 各プログラミングコンテストに積極的に取り組む。</p>	<p>試験 合格2名以上。 ③ プログラミングコンテストの入賞をめざす。</p>	<p>(活動計画の実施状況) ① 週一回の実習を行い、その都度レポートを提出させた。 ② 夏休み等に各補習を行い受験させた。 ③ 夏合宿でアプリケーションを作成した。</p>	<p>きた。 ② 資格については目標を達成することができなかった。 ③ 1作品が全国大会に出場した。</p>	<p>で生徒の意識を高めたり、専門知識の定着に繋がった。作品を作り全国大会へ出場することで達成感が生まれた。創意工夫する能力が身についた。</p>	<p>ある。基本情報は難関であり、合格者を出すために指導法を検討する必要がある。次年度も継続できるように関係機関との連携を図っていく。</p>
<p>・環境科学コース ① 科目「実習」においては、口頭試問を強化し、自ら学び、考え、問題を解決する態度を育成する。 ② 徳島市内を流れる河川の水質調査を行い、徳島市、徳島県と連携して、郷土の自然環境の保護に積極的に取り組む人材を育成する。 ③ 資格取得を奨励し、資格補習を計画的に実施する。 ④ 科学論文発表(ポスター発表)を目標に積極的に取り組む。ものづくりに係わる競技大会を目標に積極的に取り組む。</p>	<p>・環境科学コース ① 期限内実習レポート提出率95%以上をめざす。徳島市・徳島県の環境担当部署との連携を図る。 ③ 危険物乙4の取得率が80%以上。 ④ SSH発表会(県、四国)全国総合文化祭での発表をめざす。ものづくりコンテスト四国大会に出場し、全国大会への出場をめざす。</p>	<p>・環境科学コース(評価指標による達成度) ① 提出率 95% ② 徳島県立保健製薬環境センターで水質測定技術講習会を実施した。 ② 第3学年の取得率は73%であった。 各学年の危険物乙4取得率 1年 34%→66% 2年 64%→30% 3年 73%→64% ④ 県内、四国および全国大会でポスター発表を行った。ものづくりコンテストでは、四国大会に出場した。 (活動計画の実施状況) ① 実習の各班で徹底した。 ② 実験室のみの研修となったが、内容は充実していた。 ③ 補習を実施し、合格をめざした。 ④ ものづくりコンテストは今年度も県大会が行われた。</p>	<p>・環境科学コース(達成度) B (所見) 資格取得に関しては目標を十分に達成できなかったが、その他の項目に関してはほぼ、予定していた内容で達成することができた。</p>	<p>・環境科学コース 研究発表会・コンテスト等においては、積極的に取り組み、ある一定の成果を上げることができた。 実習レポートに関しては一部の生徒で提出が不十分なときがあった。 資格試験においては、昨年度より成績が低下した。今後はさらにチャレンジする主体的な姿勢が望まれる。</p>	<p>・環境科学コース 検定や、資格試験の補習については、さらに計画的に次年度も実施していきたい。 SSH事業を進めることによって、全国レベルの活動を行っている他校生たちからの刺激を、本校生徒の活動の糧としたい。</p>
<p>・機械コース ① 資格取得を奨励し、資格補習を計画的に実施し、合格率のアップを図る。 ② ものづくりに係わる競技大会を目標に積極的に取り組む。</p>	<p>・機械コース ① 2級ボイラー技士(2年)の合格率を補習出席者の60%以上。機械製図検定(3年)の合格率を65%以上をめざす。 ② ものづくりコンテストで、県内優勝し、四国大会に進出する。また、四国地区高校生溶接技術競技会では県内大会を勝ち抜き、本大会に出場する。</p>	<p>・機械コース ① 2級ボイラー技士の合格率は100%、機械製図検定の合格率は88.2%であった。 ② ものづくりコンテストでは県内大会では3位に入賞した。また、第5回四国地区高校生溶接技術競技会では県内大会で団体優勝し、本大会に出場した。 (活動計画の実施状況) 実習を欠席した生徒には、後日、追実習するなどして、生徒全員に対して目的のスキルをつけさせた。</p>	<p>・機械コース(達成度) A (所見) 十分な成果が得られた。</p>	<p>・機械コース ① 2級ボイラー技士・機械製図検定とも、当初の目標を達成することができた。 ② 各種コンテストにおいてもおおむね目標とする結果を残すことができた。</p>	<p>・機械コース 2級ボイラー技士・機械製図検定の指導方法とも、ほぼ確立できたと思われる。この指導のノウハウを次年度の担当者に引き継ぎ、来年度も引き続き高い合格率をめざす。</p>
<p>・生産システムコース ① メカトロニクス関連企業に就職する際、学習していた良かったと評価されるような実習をしっかり実践する。 ② コースの基幹となる資格を取得できるよう、最大限のサポートをする。 ③ 各種の技術的なコンテストに応募出場し、賞を得る。</p>	<p>・生産システムコース ① シーケンスなどのスキルスタンダードを含む学習内容を充実させる。 ② クラス60%以上の合格率をめざす。 ③ ロボット競技など、全国大会出場をめざす。6次産業化事業や県主催の防災避難パネル製作などを通し、自主的に社会に貢献する生徒を育成する。</p>	<p>・生産システムコース(評価指標による達成度) ① 空気圧ロボットなどのシーケンス制御実習の充実や、課題研究の授業などは、より実践的な制御技術を取り入れた。 ② 本コースの基幹資格であるDD3種の合格率は、100%となった。 ③ 生産システムコースの生徒を含むロボット部のロボットが県大会を勝ち抜き、全国大会に出場した。また、6次産業化プロデュース事業では、全国高校生ビジネスグランプリにてプレファイナル20校に選出され表彰された。防災避難パネルの製作は、専門的な知識を発揮し、地域の防災に貢献</p>	<p>・生産システムコース(達成度) A (所見) 計画通り実施でき、一部で計画以上の成果を出すことができた。</p>	<p>・生産システムコース ① 生徒も専門の内容に意欲が高まった。 ② 資格試験に関しては計画以上の成果を上げることができた。 ③ 各種大会、事業に関しては計画以上の成果を上げることができた。</p>	<p>・生産システムコース 各項目共通で、指導のノウハウを次年度の担当者に引き継ぐ等の継承を行いつつ、斬新的な発展をめざす。</p>

		<p>するものづくりができた。</p> <p>(活動計画の実施状況)</p> <p>① 計画通りの実施ができた。 ② 予想以上の成果を上げた。 ③ 計画通りの実施ができた。</p>			
<p>・電気コース</p> <p>① 資格や検定の合格率向上めざして補習を充実させるとともに自主的に学習に取り組む習慣を身につけさせる。</p> <p>② ものづくりコンテストへの準備を早期の段階から始め、指導体制を充実させ、十分な練習時間を確保する。</p>	<p>・電気コース</p> <p>① 資格受験者の補習出席率90%以上を目標にする。</p> <p>② ものづくりコンテスト県大会で優勝し、四国大会に出場する。そして全国大会への出場をめざす。</p>	<p>・電気コース (評価指標による達成度)</p> <p>出席率は90%以上を確保できた。</p> <p>ものづくりコンテストは四国大会準優勝であった。</p> <p>(活動計画の実施状況)</p> <p>予定通り実施できた。</p>	<p>・電気コース (達成度)</p> <p>B</p> <p>(所見)</p> <p>ほぼ十分な成果が得られた。</p>	<p>・電気コース</p> <p>① 補習に出席することにより合格率が高く維持できている。集団で取り組むことで相乗効果により意欲的に取り組み技能・知識の向上が進んだ。</p> <p>② コンテストに取り組み他校生徒との切磋琢磨により意欲や技能が高まった。</p>	<p>・電気コース</p> <p>引き続き補習体制を維持する。</p> <p>コンテストは全国大会出場をめざす。</p>
<p>・情報通信コース</p> <p>① 資格取得を奨励し、資格補習を計画的に実施する。</p> <p>② ものづくりに係わる競技大会を目標に積極的に取り組む。</p>	<p>・情報通信コース</p> <p>① 国家資格取得をめざし、2つ以上の資格を取得する。</p> <p>② ものづくりに係わる競技大会・全国大会出場をめざす。</p>	<p>・情報通信コース (評価指標による達成度)</p> <p>予定通り実施できた。</p> <p>(活動計画の実施状況)</p> <p>基本情報処理技術者試験に3年生が1名、2年生が1名合格した。</p> <p>計画通りの指導を行った。四国大会では奨励賞を頂いたが全国へは進めなかった。</p>	<p>・情報通信コース (達成度)</p> <p>A</p> <p>(所見)</p> <p>受験意欲と補習への参加継続が必要。</p> <p>校内では優秀だが四国ではまだまだである。</p>	<p>・情報通信コース</p> <p>難関の基本情報処理技術者試験に3年生が1名、2年生が1名合格できた。</p> <p>コンテストへ参加させる学年を検討した方が、良い結果に繋がる可能性がある。</p>	<p>・情報通信コース</p> <p>何のために学習するのか、学習すると自分の興味の何が満足するのか等のモチベーションを保てるようにする。</p> <p>四国大会を目標ではなく、全国大会出場を目標に取り組む。</p>
<p>・環境土木コース</p> <p>① スキルスタンダードを実施し、技能目標を明確にすることで意欲的に測量技術習得を図る。</p> <p>② 専門知識の理解と意欲向上のため資格取得をめざす。</p> <p>③ ものづくりコンテスト測量競技に出場をする。</p> <p>④ コンクリート甲子園に出場する。</p>	<p>・環境土木コース</p> <p>①-1 レベル4達成率80%以上をめざす。</p> <p>②-1 2級土木施工管理技術検定・学科試験70%以上、測量士補30%以上の合格をめざす。</p> <p>③-1 四国・全国大会出場をめざす。</p> <p>④-1 入賞をめざす。</p>	<p>・環境土木コース (評価指標による達成度)</p> <p>一部実施できなかったものもあるがおおむね予定通り実施できた。</p> <p>(活動計画の実施状況)</p> <p>②-1 2級土木施工管理技術検定・学科試験76%、測量士補38%の合格。</p> <p>③-1 四国大会出場。</p>	<p>・環境土木コース (達成度)</p> <p>A</p> <p>(所見)</p> <p>昨年度よりもよい結果を残すことができた。</p>	<p>・環境土木コース</p> <p>資格試験では、近年では一番よい結果を出すことができた。</p>	<p>・環境土木コース</p> <p>資格試験合格も大切だが、コミュニケーション能力や自主性の向上のための取組を進めたい。</p>
<p>・建築コース</p> <p>① 有益な資格を取得させ、検定の合格をめざす。</p> <p>② ものづくりに係わる競技大会を目標に積極的に取り組む。</p>	<p>・建築コース</p> <p>① 有益な資格取得をめざし、2つ以上の資格を取得する。</p> <p>② ものづくりコンテストで、県予選突破し、四国大会に進出する。</p>	<p>・建築コース (評価指標による達成度)</p> <p>概ね達成した。</p> <p>(活動計画の実施状況)</p> <p>主に実習において実施できている。</p>	<p>・建築コース (達成度)</p> <p>A</p> <p>(所見)</p> <p>おおむね昨年どおり成果が上がった。</p>	<p>・建築コース</p> <p>実習時に行うことで少人数学習となり理解できていない生徒に対する指導が容易であり確実な知識の習得につながっている。</p>	<p>・建築コース</p> <p>① 資格試験と、授業内容のタイミングは完全ではない面があるが、生徒が積極的に挑戦出来るようにしたい。</p> <p>② 製作予算などをもう少し確保したい。</p>
<p>・総合デザインコース</p> <p>① 有益な資格を取得させ、検定合格率向上をめざす。</p> <p>② 資格取得を奨励し、資格補習を積極的に実施する。</p> <p>③ デザイン分野の各種コンクールに出品し、入賞をめざす。</p>	<p>・総合デザインコース</p> <p>① レタリング70%以上、トレース80%以上、色彩検60%以上の合格率をめざす。</p> <p>② 補習に積極的に参加させる。</p> <p>③-1 ものづくりコンテストで県大会突破をめざす。</p> <p>③-2 課題研究の作品を各種コンペに出品し、入賞10%以上をめざす。</p>	<p>・総合デザインコース (評価指標による達成度)</p> <p>① レタリング92%、トレース95%、色彩検65%の合格率であった。</p> <p>(活動計画の実施状況)</p> <p>② 色彩検定やグラフィックデザイン検定、危険物の補習については早朝に行い、100%に近い出席率であった。</p> <p>ものづくりコンテストは四国大会出場を果たした</p> <p>③ 四国照明デザインコンテスト、デザセン、パテントコンテストで入賞を果たした。</p>	<p>・総合デザインコース (達成度)</p> <p>A</p> <p>(所見)</p> <p>各検定で目標とする合格率を上回った。</p>	<p>・総合デザインコース</p> <p>実技検定であるレタリング、トレース検定は実習時だけでなく、放課後や家庭での学習で成果をあげている。</p> <p>色彩検定、グラフィックデザイン検定、危険物の補習については早朝補習を計画的に行うことにより、成果をあげてきた。</p>	<p>・総合デザインコース</p> <p>① 資格については、今後も継続して、各検定の最上位をめざしていきたい。</p> <p>② 積極的な資格補習への参加を促したい。</p> <p>③ 各種コンペに今後も継続して出品していききたい。</p>
・海洋科学・海洋総合コース	・海洋科学・海洋総合コース	・海洋科学・海洋総合コース	・海洋科学・海洋総合コース	・海洋科学・海洋総合コース	・海洋科学・海洋総合コース

		① 1年生で基本的なロープワークを身につけさせる。 ② 四国地区の水産系高校の生徒研究発表会や意見体験発表会およびSSH生徒発表会に参加する。	① 基本的な5種類のロープワークを習得している生徒の割合90%以上をめざす。 ② 四国大会で最優秀賞をとり、全国大会出場をめざす。	(評価指標による達成度) ① 基本的な5種類のロープワークを習得している生徒の割合79%であった。 ② 水産・海洋系高校産業教育意見体験発表会四国地区大会最優秀賞、全国大会奨励賞、水産・海洋系高校生徒研究発表会四国地区大会最優秀賞、全国大会奨励賞。  (活動計画の実施状況) ① 基本的な5種類のロープワークを習得している生徒の割合79%であった。 ② 意見体験発表会および生徒研究発表会において、四国大会最優秀賞を受賞し全国大会に出場することができた。	(達成度) B  (所見) ① 十分目標が達成できなかった。 ② 全国大会にも出場し、目標を達成することができた。	① 繰り返し練習を行い、最低限必要なロープワークは確実に習得させたい。  ② 全国大会に出場することはできなかったが、全国大会で入賞できるように生徒のプレゼンテーション能力を高めていきたい。	① 繰り返し練習し、素早く確実にロープを結ぶ技術を身に付けさせたい。  ② 他校の発表を参考にしながら、良い点を指導に取り入れていきたい。
--	--	--	--	---	--	---	---

学 校 自 己 評 価

年 度 目 標					年 度 評 価 ( 3 月 1 日 現 在 )			
番 号	重 点 課 題	重 点 目 標	活 動 計 画	活 動 の 評 価 指 標 ( 目 標 値 )	評 価 指 標 の 達 成 状 況	総 合 評 価	効 果 と 検 証	次 年 度 へ の 課 題 と 改 善 策
27	家庭・地域等との連携・貢献  ① 保護者への連絡・学校の情報提供を、文書とホームページへのアップの両方で行う。	① シャトル便の積極的な活用を図り、家庭との連携を密にするとともに、生徒の社会規範確立をめざす。また、PTA活動への積極的な参画を進め、保護者と教員がより頻りに意見を交換する機会の充実に努める。  (企画部・総務課) (企画部・企画広報課)	① 生徒・保護者・教員相互の関わりについて研修を深める。 ② 体育祭や文化祭のPTA活動における内容の検討と充実を図るために保護者との連携を密にする。 ③ 学校と家庭との連携を密にし、ホームページでの行事参加の呼びかけをする。 ④ PTA役員と生徒代表の意見交換会を設け、保護者と生徒の意思疎通を図る。	① 保護者・教員参加のもと学校行事関係のPTA役員会を2回以上実施する。 ② 体育祭・文化祭実行委員会を開催し、役員参加50%以上を目標にする。 ③ 文化祭・体育祭の保護者向け案内をホームページにアップする。毎月初めに保護者向けの各種案内を確認できるように、月末までにホームページの更新を行う。 ④ 6月に学校祭等について意見交換会を実施する。	(評価指標による達成度) ① PTA役員会を4回実施。 ② 役員参加率は70%。 ③ 学校ホームページへの掲載はあまりできなかった。 ④ 意見交換会はできなかった。  (活動計画の実施状況) PTAの新たな取組として、「制服のリユース」とオリジナルのデザインを生徒からの公募によるものとした。生徒会との関係は、文化祭において合同でスタンプラリーを実施するなど昨年同様の活動ができた。	(達成度) B  (所見) 昨年同様活発なPTA活動となった。行事活動の後には反省会をするなど、次年度への改善に取り組むなどより良いPTA活動をめざしている。	① PTAによる積極的な役員会の運営が行われた。 ② 体育祭・文化祭への積極的な参加が見られた。定時制のPTAとも交流がみられた。 ③ 連絡文書が中心となり、ホームページへの掲載ができなかった。 ④ 意見交換会は開催できなかったが、生徒会担当教諭と打ち合わせができた。	① 役員会はできるだけ保護者の負担とならないように内容を厳選して開催する。 ② 引き続き役員会への参加を呼び掛ける。 ③ ホームページだけでなくメールやSNSをもっと活用する。 ④ 体育祭・文化祭以外にも生徒会と連携を図る。
28	② 各事業の担当がそれぞれに報道資料を提供するよう、システムを確立する。	② 積極的な情報発信・広報活動を行い、地域と密接に連携、貢献できる学校づくりに努める。  (企画部・総務課) (企画部・企画広報課)	① 地域・大学・企業等と連携した事業を積極的に実施する。 ② 本校の活動を積極的に広報する。	① 連携地域・団体を新規開拓する。 ② 新聞やテレビなどのメディアを通じて積極的に行う。	(評価指標による達成度) ① SSH事業を中心に活発に行われた。地域との連携については、ユネスコスクール事業によるボランティア活動も徳島ユネスコ協会と連携をとりながら行うことができた。 ② 新聞・テレビの掲載、放映が適切に行われた。  (活動計画の実施状況) ① ユネスコスクールについては、生徒会中心に学校周辺、および地域の清掃活動や徳島ユネスコ協会主催のボランティアスタッフなど活発に行われた。 ② 新聞社の取材は12回、テレビ局の取材は8回行われ、広報活動が効果的に行われた。	(達成度) A  (所見) ユネスコスクールについてはさらに組織作りを進める必要があるが、SSH事業の取組、マスコミ等での広報活動は積極的に行うことができた。	① 地域や校外の団体との連携により、生徒の活動がより充実し、深みを増し、学習効果が高められた。 ② マスコミの取材を受けることによって、より広範囲で効果的な広報活動を行うことができた。	持続的に地域・大学・企業等と連携しながら、広報活動ができるように努める。
29	③ 中学校関係者への学校紹介イベントの年間スケジュールを積極的に	③ 中学生体験入学やオープンスクール、ホームページや中学校訪問等を通して、本校の教育内容・教育活動についての広報	① 各クラスやコースの特色を生かし、中学生に興味・関心を持ってもらえるような実習内容を検討し、より多くの目的意識を持った中学生に受検してもらう。	① 体験入学参加者へのアンケート調査で、満足度の4段階評価が3.6以上とする。	(評価指標による達成度) ① 中学生体験入学参加中学生726名(昨年度679名)満足度の4段階評価は3.8 ② オープンスクール参加者	(達成度) A  (所見) 中学生体験入学	① 参加中学生の99%が体験入学前と比べて、徳島科学技術高校について理解できたと答え、95%が体験内容がよかった	広報活動については、定期的な問題やコンパクト化等、より中学生が参加しやすい状況を考慮して、計画していかなければなら

<p>広報する。</p>	<p>活動を積極的に実施する。 (教務部・教務課) (企画部・総務課) (企画部・企画広報課)</p>	<p>(教務部・教務課) (企画部・企画広報課) ② 魅力あるオープンスクールを実施し、地域に信頼され、多くの方が参加できるようにする。 (企画部・企画広報課) ③ 広報内容を吟味し、速やかな情報発信を行う。 (企画部・企画広報課)  ④ 中学校を訪問し、本校の教育内容・教育活動について説明し、中学校教職員に本校について理解してもらう。 (企画部・企画広報課)</p>	<p>② オープンスクール参加者へのアンケート調査で、満足度の評価が4段階で3.6以上とする。 ③ 学校ホームページの更新回数を月3回以上とする。 また、緊急連絡についてホームページを活用しすみやかに全関係者に周知できるようにする。 ④ 近隣中学校への学校訪問を年1回以上実施する。</p>	<p>54名(昨年度66名) 満足度の4段階評価は3.8 ③ 4月から2月までの更新回数 SSH関係 10回 トピックス 7回 類・コース 9回 部活動 34回 その他 31回 合計 91回 ④ 6月から11月までの中学校進学説明会 29校を訪問 (活動計画の実施状況) ① 中学生体験入学は、昨年まで2日間行っていたが、今年度より1日間に短縮した。</p>	<p>は、内容を精選しコンパクト化することによって昨年以上の成果を上げることができた。 オープンスクールは開催時期等について再考する必要がある。</p>	<p>と答えている。徳島科学技術高校の広報という点では当初の目的を達成できた。 ② 本年度の参加人数は昨年度より減少したが、参加者の満足度は高い。 ③ 積極的な更新により、本校の取組の理解が広がっている。 ④ 本校の取組が直接中学生に理解され大変有効であった。</p>	<p>い。</p>
--------------	---	---	---	---	--	--	-----------